## 事例１　身近な家族がいない単身高齢者（78 歳・女性）の住み替え

【市内の地域包括支援センターからの転居支援依頼】

〇市内の地域包括支援センターから電話があり、住まいと暮らしのサポートセンターおかやま（以下「すまサポおかやま」）に、転居の相談に乗って欲しいと依頼がある。

〇地域包括支援センターから伝えられた相談者の概要は以下の通り。

・相談者は A さん（78 歳・女性）。

・市内北区の賃貸アパートの 2 階で一人暮らし。階段の上り下りが大変になってきたので、1 階又はエレベーター付きの賃貸物件に住み替えたい。

・料理や洗濯などの家事、身支度や買い物など、一通りの身の回りのことは自分でできる。

・認知症の検診を受けたことはないが、ひどい物忘れはなく、一般的な判断能力はある。

・高血圧と糖尿病の持病があり、近所の内科に１ヶ月に１度通院している。このほか、白内障と眼圧検診のために定期的に通院している。

・国民年金（6 万円／月）と生活保護（10 万円／月）を併給して生活しており、福祉事務所の担当ケースワーカーが 3 ヶ月に 1 度訪問している。

・介護保険の要介護認定は申請しておらず、介護サービスは利用していない。

【すまサポおかやまで本人との面談】

〇すまサポおかやまの窓口に、ご本人一人で来店され、面談の結果、以下のことが分かった。

（住まいについての要望）

・現在家賃は４.5 万円の 2DK（40 ㎡）に住んでおり、契約は半年後まで。

・賃料と広さは今と同じくらいがよい。間取りは 1DK でも 1LDK でもよいが、荷物が多いので、その荷物が入れることが必要。

・風呂とトイレは別で、トイレは洋式がいい。エアコン付きであればなおよい。駐車場は不要。

・築古でも構わないが、日常の買い物が歩いて行けるところがいい。バス停や駅近くならいいが、できれば、知人宅や馴染みのお店がある今の生活圏は変えたくない。

（ご本人について）

・出身地は総社市。

・夫は 20 年前に亡くなり、子供はいない。親兄弟は既に亡くなっている。姉の娘（既婚・60 歳）が名古屋にいるが、姉が 10 年前に亡くなって以降は連絡を取っていない。

・週１度、近所の知人宅でのお茶会に参加してお喋りするのが楽しみ。自宅に招くこともある。

・緊急連絡人が必要であれば、この知人に頼んでみようと思う。

・穏やかな性格で何事にも几帳面。借金や滞納などはしたことがない。

【不動産業者との相談へ】（みなさんに考えていただきたいこと）

〇すまサポおかやまから地域の不動産業者（会場のみなさん）に、ご希望に添った物件を提供いただけるか問い合わせました。

〇現在の情報において、この方にお部屋を貸すことに何か不安や心配はありますか。

〇お部屋を貸していただくために、あと、どのようなことを確認する必要がありますか。

〇不動産業者の不安や心配を解消するために、また、この物件で長く安心して住み続けていただくために、どのようなことが必要ですか。

※「住まいと暮らしのサポートセンターおかやま」での対応事例をもとに、一部加工

## 事例２　家族から自立して生活を始めたい精神障害者（45 歳・男性）住まい探し

【市内の保健センターからの転居支援依頼】
〇市の保健センター（保健所）から電話。
〇ひきこもりのある息子（本人）が自宅から自立して生活を始めることを考えている。
〇今は両親と自宅で暮らしているが、両親は高齢になり、息子の身の回りのこともできなくなりつつあるので、両親が元気なうちに息子が自立して生活できるようにしたいと、両親から保健センターに相談があり、両親と保健師で息子さんの将来について考えている。
〇どのようにしたら息子さんが住まいを借りられるか、相談に乗って欲しいと依頼がある。

■保健センターの主な仕事
障害者関係　こころの健康相談、障害者手帳の交付や障害福祉サービスの利用申請
子育て関係　母子健康手帳の交付、予防接種や乳幼児検診、育児相談　など

【すまサポおかやまで本人との面談】
〇すまサポおかやまの窓口に、両親と保健センターの保健師の二人で来店。
〇ご両親から伺った相談者の概要は以下の通り。
（本人について）
・相談者は B さん（45 歳・男性）。20 歳の頃からひきこもりがある。
・市内北区の自宅（一戸建て）で両親（父 72 歳、母 68 歳）と三人暮らし。両親が元気なうちに息子が自立して生活できるように、ひとり暮らしをさせたい。
・病院に定期的な通院はしておらず、常時服薬している薬もない。
・料理や洗濯などの家事、身支度や買い物など、一通りの身の回りのことは自分でできる。
・普段は口数が少なく、おとなしい性格だが、自宅の隣の駐車場の車の防犯音やクラクションの音で、車の持主とトラブルになったことがある。
・両親は既に退職しているが、共に教師で十分な年金があり、連帯保証人は両親がなる。
（住まいについての要望）
・本人の意向は分からない、両親としては、新しい住まいは今の自宅の近所がよい。
・お風呂とトイレはユニットでもよい。エアコン付がよい。
〇保健師から、ひきこもりの人の症状などについて説明がある。
・ひきこもりの人には、他人は自分にいやなことをするもの、怖いもの思いがあり、自分を守るために心を閉ざして、他人との人間関係を避けようとする状態
・いろいろな「しんどさ」を抱えながら生活しており、ストレスがたまりやすい。普段は優しい、おだやかな人でも、何かをきっかけに感情的になることがある。
・このきっかけの 1 つが音。隣家の音などが気になり始めると、「わざとうるさくしている」などと思い込み、反感を持つことがある。
・ひきこもりの人は、音に敏感になることがあるため、周りが静かであるとよい。

【不動産業者との相談へ】（みなさんに考えていただきたいこと）
〇すまサポおかやまから地域の不動産業者（会場のみなさん）に、ご希望に添った物件を提供いただけるか問い合わせました。
〇現在の情報において、この方にお部屋を貸すことに何か不安や心配はありますか。
〇お部屋を貸していただくために、あと、どのようなことを確認する必要がありますか。
〇不動産業者の不安や心配を解消するために、また、この物件で長く安心して住み続けていただくために、どのようなことが必要ですか。

※「住まいと暮らしのサポートセンターおかやま」での対応事例をもとに、一部加工